

矢沢永吉のテレビCMメッセージに「ドキッ!」とした人はいないだろうか? やっちゃえ! NISSAN
少々過激ともとれるキャッチコピーだが、その本当の意味とはどこにあるのだろうか? 太田さんが日産の開発者に直接聞いてみると、意外な答えが返ってきた。

美しい外国人女性が「やっちゃえ日産」と囁くテレビCMを最初に見た時、彼女が「マツサン©NHK」のシャローック・ケイト・フォックスとは気づかなかったので、これは何のメッセージだろうと思った。エッチな意味合いがあるのか…、まさかな。その後永ちゃん(矢沢永吉)が手放し運転をしながら「やっちゃえNISSAN」と言うのを見て、なるほど自動運転のことなのかと理解した。

「やっちゃえNISSAN」って、いったい何…?」

先日のドライビングレッスンは日産とのコラボで行ったが、その際エクストレイルハイブリッドの開発責任者である東倉氏とトークショーを行った。そこで「やっちゃえNISSAN」の意味を聞いてみた。
太田: やっちゃえ、ってやんちゃな言葉で、グローバルな日産にそぐわない気がします。その狙いは何ですか?
東倉: 完全自動運転化とかEV化などの新技術を、どんどん推進していくということをちょ



■文: 太田哲也

つと過激に表現したんです。太田: なるほど。でも僕は完全自動運転化は無理ではないかと思うんです。技術面よりも法規面・倫理面の制約、たとえばいったい誰が事故の責任を負うのか? 今は事故はドライバーの責任だけど、自動化が進めばメーカーの責任は免れなくなる。新宿ビル街のGPSの障害など、課題は山積みです。EVに関し

てもバッテリーの小さな蓄エネルギーではよほどの技術のブレークスルーがなければ普及できない。それなのに、やっちゃえ、なんですか?
東倉: だからこそ「やっちゃえ」なんです。ゴールは見えないけど、やる前からあきらめないという意味を込めているんです。
なるほど、出たとこ勝負というか、もしかしたらやっているうちにバッテリーにすごい改善が起るかもしれない。国を挙げて完全自動化を目指そうという流れができるかもしれない(特に高速道路など)。そもそもチャ

レンジに失敗はつきもの。立ち止まっていたら転ぶことはない。失敗のリスクを考えていたら、チャレンジはできない。だからこそ「やっちゃえ」。その面は共感できる。
● ●
日産は新技術の導入に積極的だ。ステアリング・バイ・ワイヤ(ダイレクトアダプティブステアリング)も世界に先駆けて量産車のスカイラインで採用した。エクストレイルハイブリッドも凸凹路面の揺れを抑えるアクティブライドコントロールなどの新技術が多く導入されている。トクシヨでもいろいろと教えてもらったが、ハイブリッド車のブレーキ制御の話も面白かった。
東倉: ハイブリッド車ってブレーキング開始時に前後制動配分100:0って知ってました?
一般車のブレーキは油圧で前後にバランスよく制動力が配分される。ハイブリッド車は回生ブレーキを使うのでブレーキングの始まりは前輪だけにかかる。当然不安定となる。その後から油圧に変えて前後の配分を安定化させるのだが、どのポイントで油圧に戻すかはメーカーの考えにゆだねられている。
プリウスが北米でABSの作動で止まらなさと問題になった

ことが記憶に新しいが、あれがまさしく回生から油圧に戻す制御の未熟さだった。効かないのではないのだが、たとえば濡れたマンホールの上に前輪が乗った状態でブレーキを踏んだ場合、ABSが作動して一瞬ノーブレーキ状態となる。そのとき、そのまま踏み込んでいる人もいれば離す人もいる。ありとあらゆるケースを考えながら制御を入れるのは我々が考える以上に難しいことなのだろう。
● ●
電子制御は控え目がいいと考える人がいて、オレ自身もそっちの自然派(?)タイプだが、これだけクルマが進化してくると制御技術がなければ成立しない状況も出てきているのだ。
● ●
それにしてもオレとしては、せっかく「やっちゃえ」を唱えるなら、新技術だけではなく、走りのマインドを持ったクルマ作りもやっちゃえと思う。マーケティングからはスポーツモデルは売れないと言われているのかもしれないが、最近、サーキットイベントなどが増えてきた。もしかしたら風向きが変わってきたのかも。あるいは日産が作るなら風向きが変わるかも…。
ジャーナリストとしてはともかく、ひとりのクルマ好きの立場から見ると、いまの日産車はそ

つなく賢いイメージだ。日産を代表するのはセレナとかノートで、クルマ愛好家の所有欲を満たす要素が昔のようにはない。キューブやジュークのようにキヤラが立ってなくていいから、実直に走りの質や楽しさを高めたクルマがほしいのだ。

過去はどうだったのかというと、GTRやZはもちろん、シルビアやスカイラインなど走りをフィーチャーした、そして少々やんちゃなクルマがたくさんあった。サニーなど、走りのイイ実用車も多かった。以前ホリデーオートでは日産特集をやるタバカ売れしたらしい。しかし、今はそんなに売れないという。

ノート、マーチ、ジュークにはNISMOシリーズもあるのだが、会社が力を入れていない感じがする。そもそもスポーツ路線ではないモデルがベースなので無理やりさが否めない。

日産社内でやっちゃえという機運が出始めた

日産はゴーン体制になり、開発はひとりの主査が束ねる方式から、財務や技術、マーケティング担当3人による合議制となった。これによりユーザーの声が入ってくるようになり、昔よりもヒットの打率が高くなった。しかし創造的なアイデアを提案



“やっちゃえ”
NISSAN

SAMPLE

▲「挑戦」をテーマとし、日産の強みである技術に焦点をあてた、大々的なブランドコミュニケーションとして展開するテレビCMの一コマ。「やっちゃえ」NISSANというちょっと過激だが強いメッセージにより、日産は革新的な技術で挑戦していく姿勢を表明している。

しにくくなった面もあるだろう。まあ過去の日産はゴーンさんが来なければつぶれていたかもしれないわけで、血は流れたけれど方向は正しかった。ゴーンさんが偉いのはあれだけ「コストカッター」と言われながらもGTRやZの開発を認めたことだ。自動車メーカーにとってブランドがいかに大事なものかわかっていた。

● ●
やっちゃえ。NISSANのフレーズが出てきた背景には、最近おとなしくなった日産を変えなければという空気が社内に起こったからではないか。それならチャンス到来のはずだ。

● ●
東倉さんを隣に乗せて、エクストレイルハイブリッドでサーキットを走ってみた。サーキット向きでないSUVだが、なかなかどうしてハンドリングも良くてきちんとして走れた。例のブレーキもさほど違和感がなく、最初から安心して踏み込めた。東倉氏も助手席に乗り込んで「エ

クストレイルなかなか走りますね！」と楽しそう。クルマが好きなんだなと感じた。日産には彼のようなクルマ好きがいるのだから、何としても作り手が自分で乗りたくなるクルマを作らせてあげて欲しい。

たとえば、Zを4シーター化&天井を高くして、3・7ℓV6エンジンをジュークの1・6ℓ直4ターボに換装。軽くして値段を安くできたらなおいい。あるいはエクストレイルの車高をぐっと落としてスポイラーやエアロをまとったサーキットモデルはどうだろう……。まあ俺のアイデアはこの程度だが、日産にはもっと優秀かつクルマ好きがいるはずだから、そんな彼らに楽しいクルマを作らせちゃえ。

“やっちゃえ” NISSANの背景には、おとなしくなった日産を変えなければという空気が社内にあるからではないか。それならチャンス到来のはずだ！



▲エクストレイルハイブリッドの開発責任者である東倉氏は、「無理だと思われることをやる前からあきらめずに、技術的にも挑戦していくことが「やっちゃえ」NISSANの中にも含まれていると思います」とコメント。